

# 平成27年度 佐渡市特別活動部 活動報告

部長 宇佐美 陽子

## 1 研究主題

「学びに向かう土台を築く学級づくり」

## 2 研究の概要

特別活動では、「よりよい人間関係を築く」ことや「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」ことが目標とされている。佐渡市の特別活動部では、その2点を重視しながら、学力向上につながる特別活動や学級経営について研修を進めた。「学びに向かう土台を築く学級づくり」という研究主題を設定した。

## 3 研究の実際

### (1) 第1回専門部会

期 日：平成27年4月15日（水）

内 容：研修テーマ及び研修方針の検討，活動計画の立案

### (2) 第2回専門部会

期 日：平成27年11月13日（金）

内 容：講話

講 師：新潟県立教育センター

指導主事 鈴木 正彦 様

テーマ：「学びに向かう土台を築く学級づくり」

講話の内容

- ・Q-Uテストの概論
- ・「子ども一人一人を大切にする」という教師の姿勢
- ・困り感（思いや願い）を分かろうとする視点をもつ。そのためには、子どもの話を聴き、分かろうとする。
- ・Q-Uテストの満足型の学級集団の学力の伸びがいいと言われている。
  - ①関わりの中で、学習意欲が喚起される。
  - ②互いに認め合うことで、学習意欲が持続する。
  - ③友達のいい学習方法をモデルにして取り入れる。
  - ④主体的な学習習慣が形成され、学習活動に広がりや深まりが起これ、学習が定着する。（参考文献：河村茂雄 2007「データが語る①学校課題」図書文化）
- ・ルールが守られた「安心・安全」な学級
- ・リレーション（教師と子ども、子ども同士の間のふれあいのある人間関係）のある学級
- ・講師への質問（事前アンケート）



## 4 成果と課題

子どもたちが安心して学ぶには、ルールとリレーションのある学級経営が大切だということが分かった。そのための方策・心構えとして、教師が子どもたちの困り感を分かろうとすること、教師がよい聴き手となることなどについて話していただき、参考になった。「傾聴の姿勢を心掛けたい。」などといった声が聞かれ、有意義な研修会となった。

今年度の反省・改善点として、有識者の講話を1学期に聞き、それを基に実践したことの情報交換や授業研究を2学期に行うと、さらに研修が深まるという意見が出た。